

副業アカデミー FX講座

「フォーメーション」

フォーメーション分析 とは？

(1) チャートを視覚的なパターンから分析する手法です

- ・チャートの値動きには、いくつかパターンがある
- ・市場参加者は、チャートパターンを重視する傾向がある

(2) 基本パターンには、以下の2通りあります

- ① 反転パターン [Reversal Pattern]
- ② 継続パターン [Continuation Pattern]

フォーメーション分析から、次に起こる可能性の高い値動きのパターンを一手先に判断することができます

反転パターン

1. ダブルトップ [ボトム] P6
2. トリプルトップ [ボトム] P10
3. ヘッドアンドショルダーズ P14
4. ダイヤモンド P19
5. ライン型リバーサル P23
6. ソーサー型リバーサル P26
7. V字型リバーサル P29

継続パターン

1. ボックス・レクタングル P35
2. 三角保合い P38
3. フラッグ P47
4. ウェッジ P51

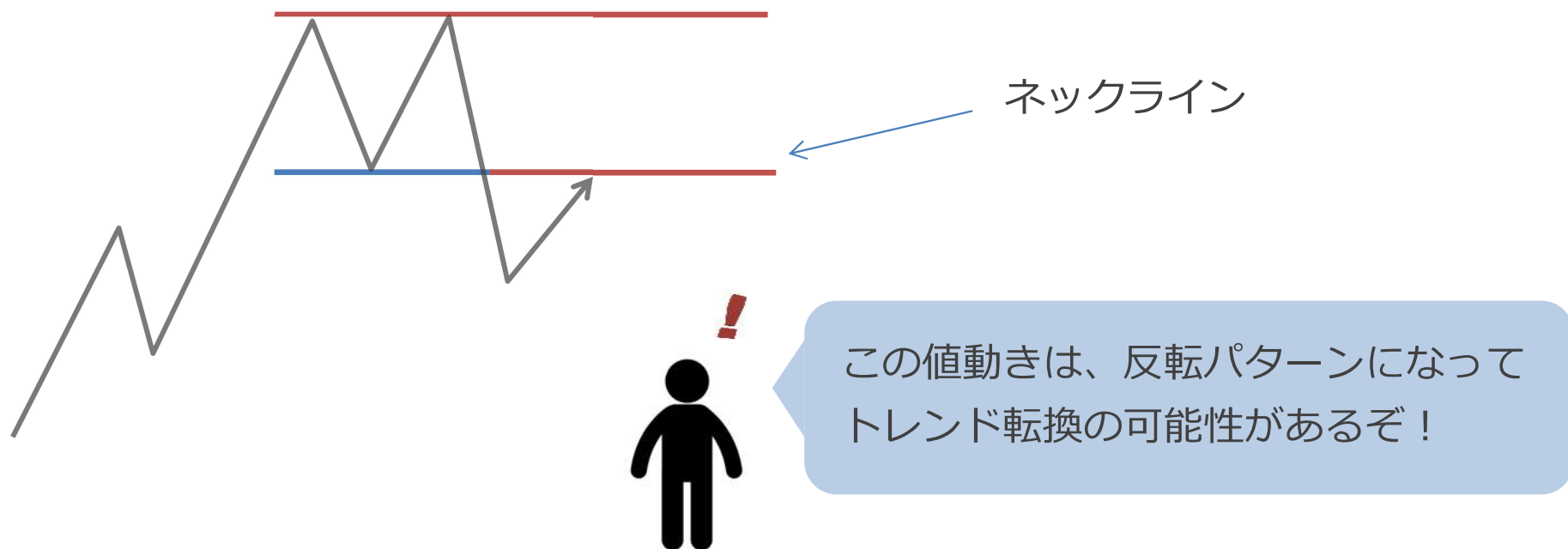
反転パターン

反転パターン とは？

反転パターンとは、**トレンド転換の可能性**を示唆するチャートの動き

- ・反転パターンの見極めには、ネックラインという考え方が重要
- ・ネックラインは、支持線から抵抗線に変化したラインを指す

反転パターンを知っておくと
トレンド転換の初動の動きを捉えることができる

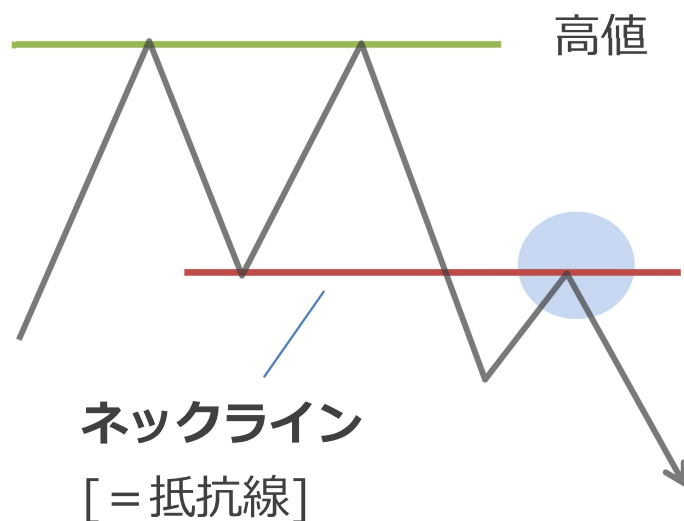


1. ダブルトップ [ボトム]

1-1. ダブルトップ [ボトム] の形

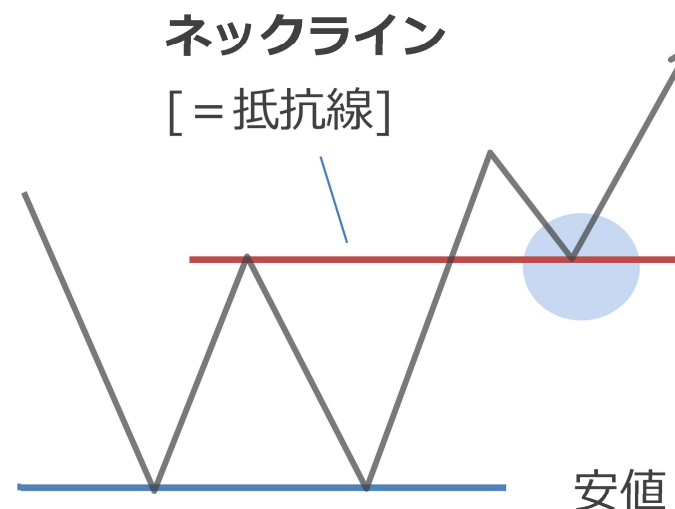
ダブルトップ [ボトム] は、2つの高値 [安値] を付けた後に転換するパターン

ダブルトップ



- ・直前の高値を上回らず、2点の高値を形成
- ・ネックラインを起点に**売り転換する**

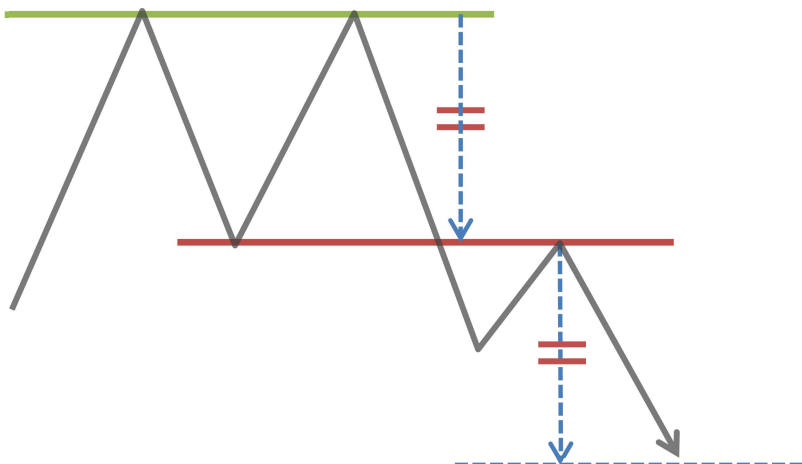
ダブルボトム



- ・直前の安値を下回らず、2点の安値を形成
- ・ネックラインを起点に**買い転換する**

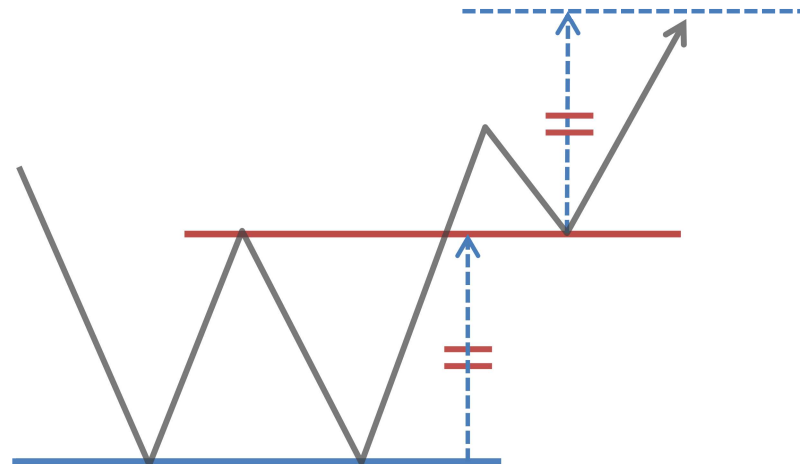
1 - 2. 目標値の目安

ダブルトップ



- ・ 高値とネックラインまでの同じ値幅分が
ネックラインを起点に下落の目安になる

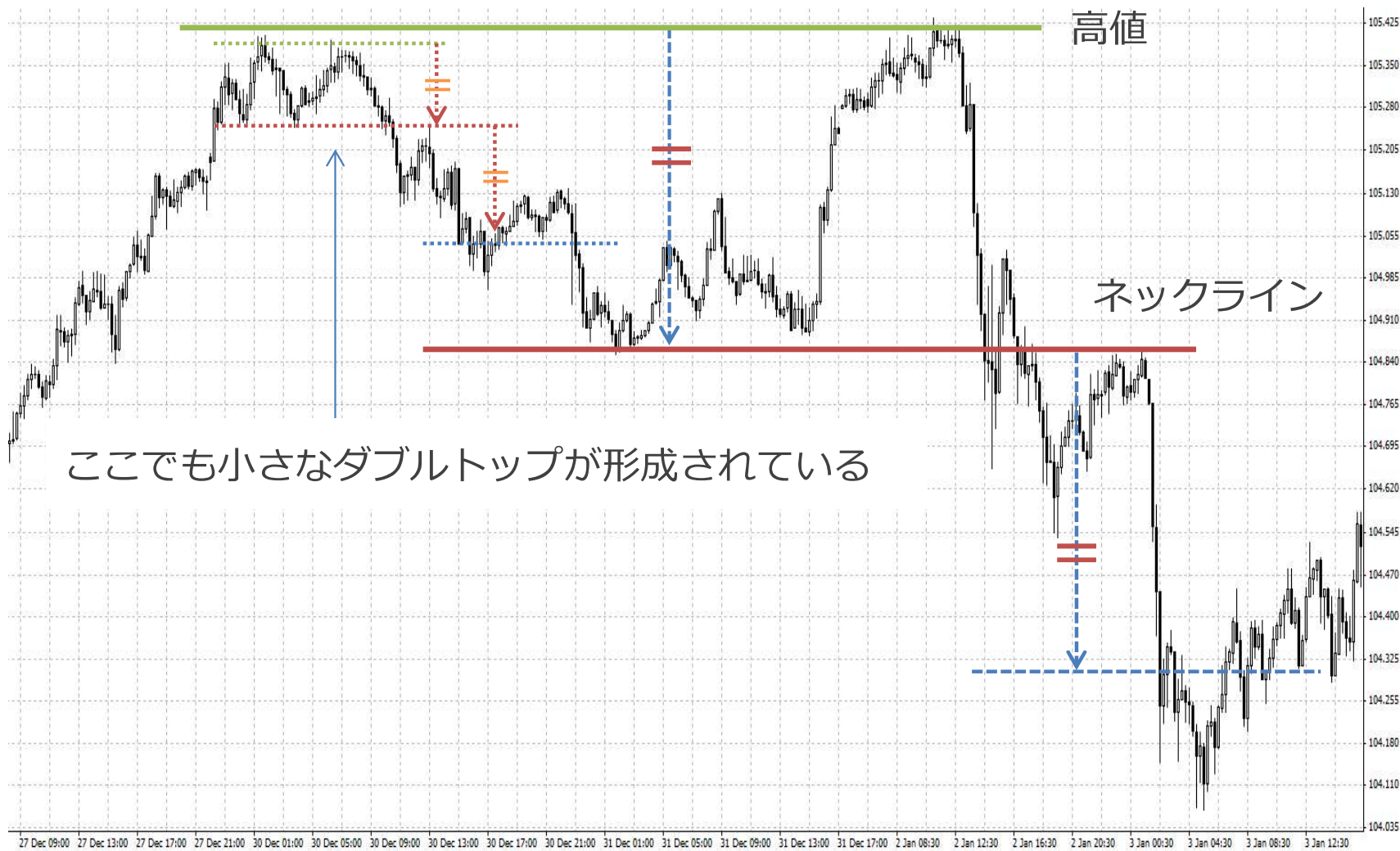
ダブルボトム



- ・ 安値とネックラインまでの同じ値幅分が
ネックラインを起点に上昇の目安になる

1-3. チャート例

ドル/円 15分足

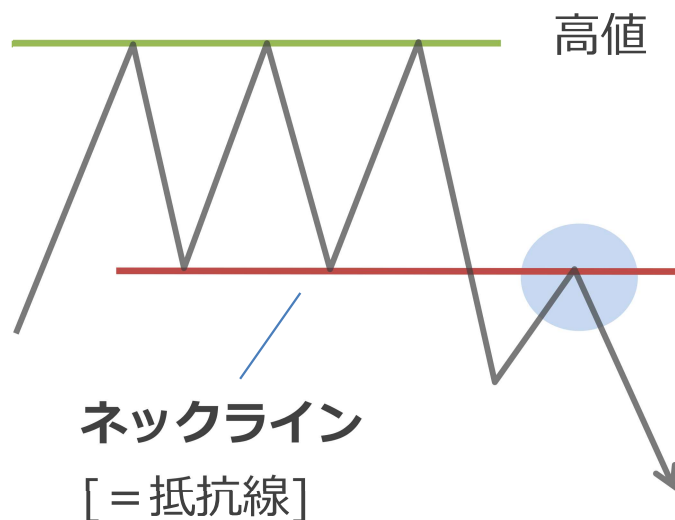


2. トリプルトップ° [ボトム]

2-1. トリプルトップ [ボトム] の形

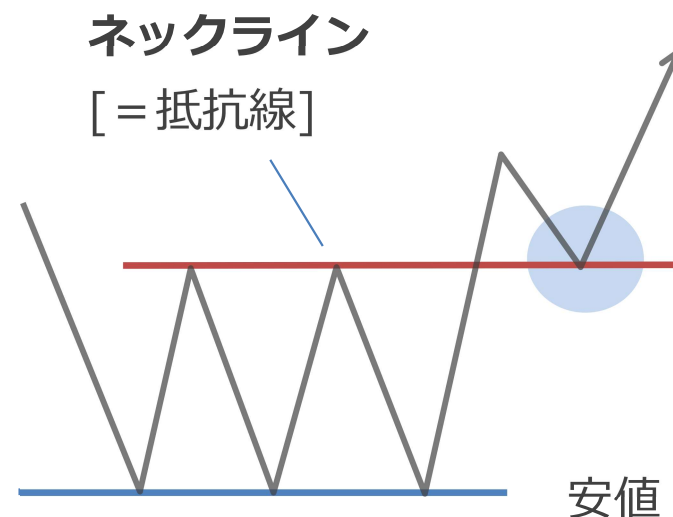
トリプルトップ [ボトム] は、3つの高値 [安値] を付けた後に転換するパターン

トリプルトップ



- ・直前の高値を上回らず、3点の高値を形成
- ・ネックラインを起点に**売り転換する**

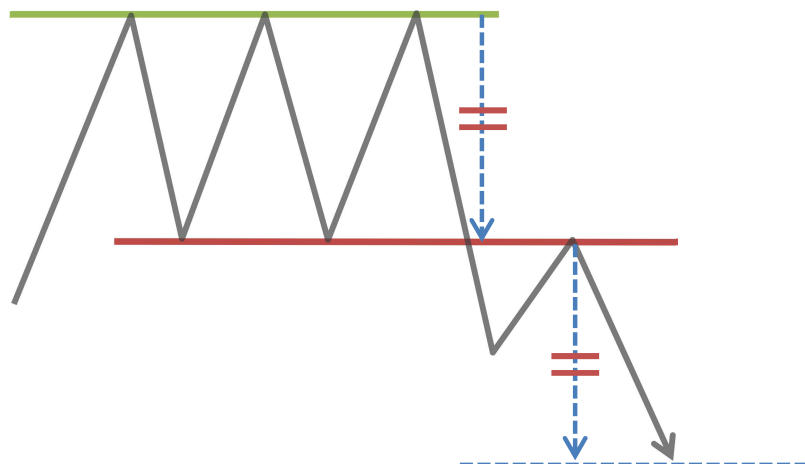
トリプルボトム



- ・直前の安値を下回らず、3点の安値を形成
- ・ネックラインを起点に**買い転換する**

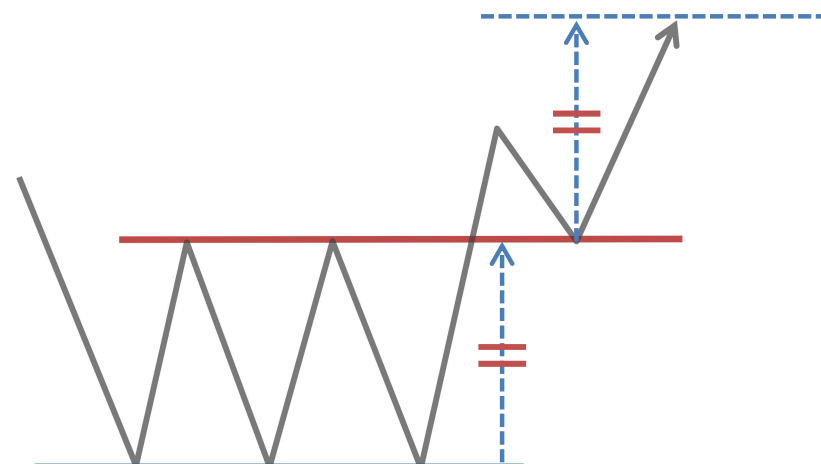
2-2. 目標値の目安

トリプルトップ



- ・ 高値とネックラインまでの同じ値幅分が
ネックラインを起点に下落の目安になる

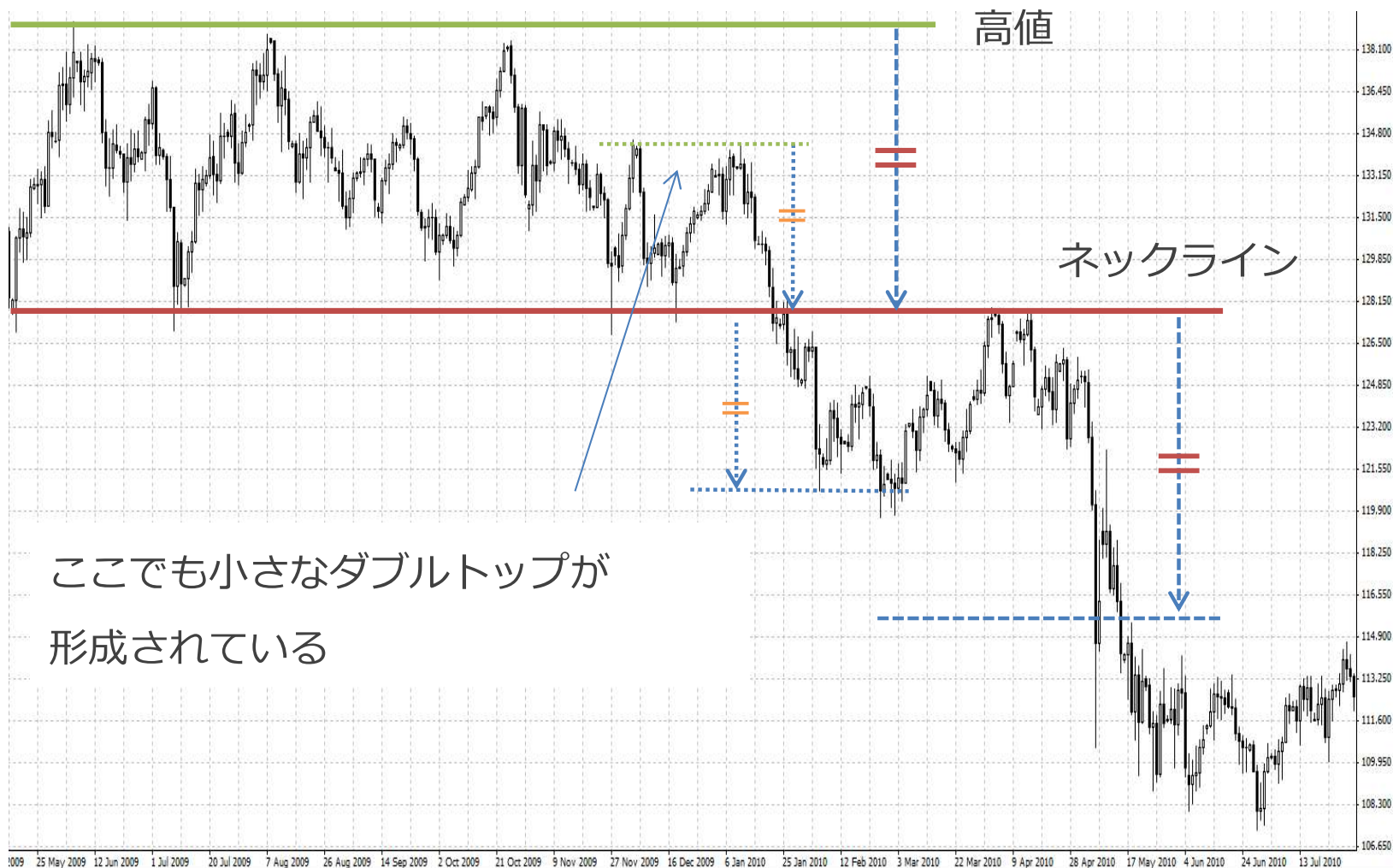
トリプルボトム



- ・ 安値とネックラインまでの同じ値幅分が
ネックラインを起点に上昇の目安になる

2-3. チャート例

ユーロ/円 日足

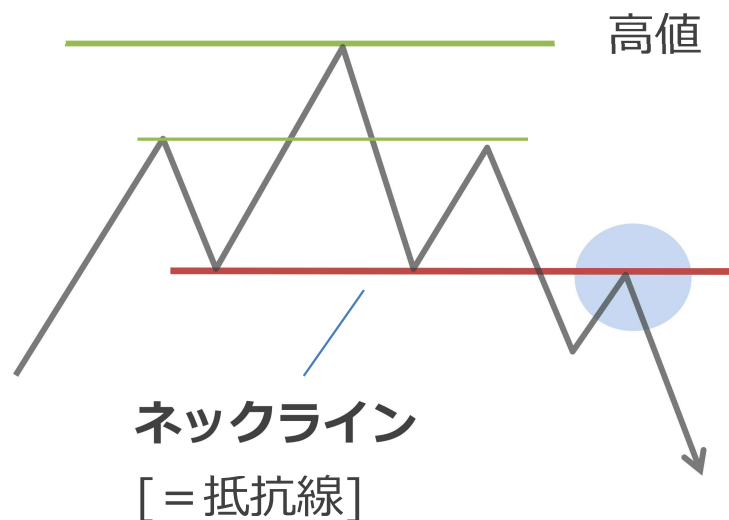


3. ヘッドアンドショルダーズ

3 - 1. ヘッドアンドショルダーズの形

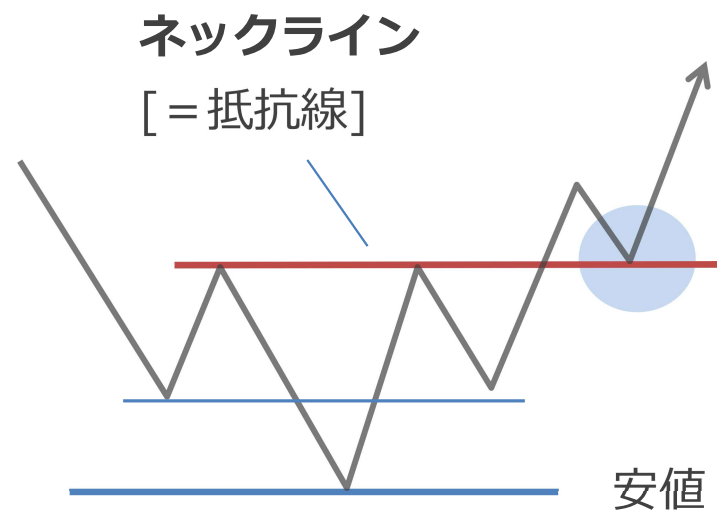
ヘッドアンドショルダーズは、三尊天井とも呼び三山型のパターンになる

天井型



- ・ 真ん中の山が最高値になる
- ・ ネックラインを起点に**売り転換する**

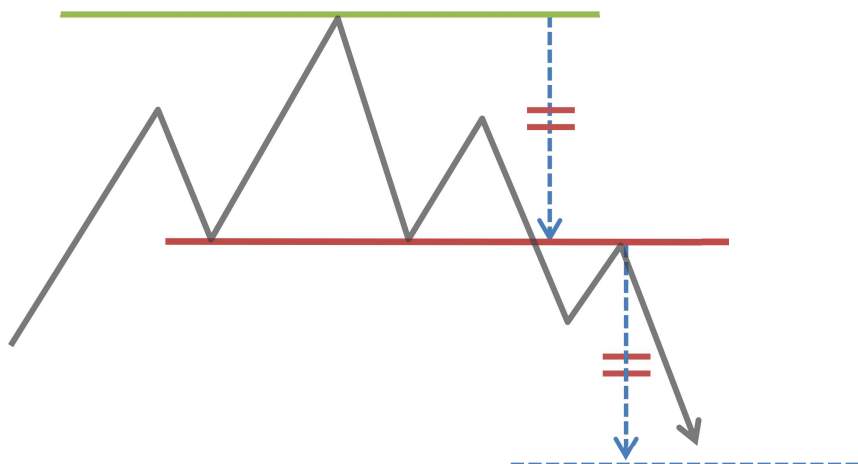
底値型



- ・ 真ん中の谷が最安値になる
- ・ ネックラインを起点に**買い転換する**

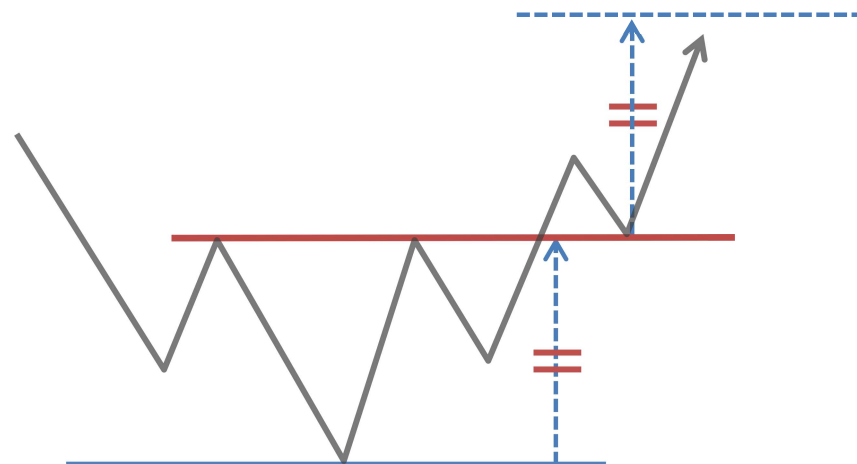
3 - 2. 目標値の目安

天井型



- ・ 高値とネックラインまでの同じ値幅分が
ネックラインを起点に下落の目安になる

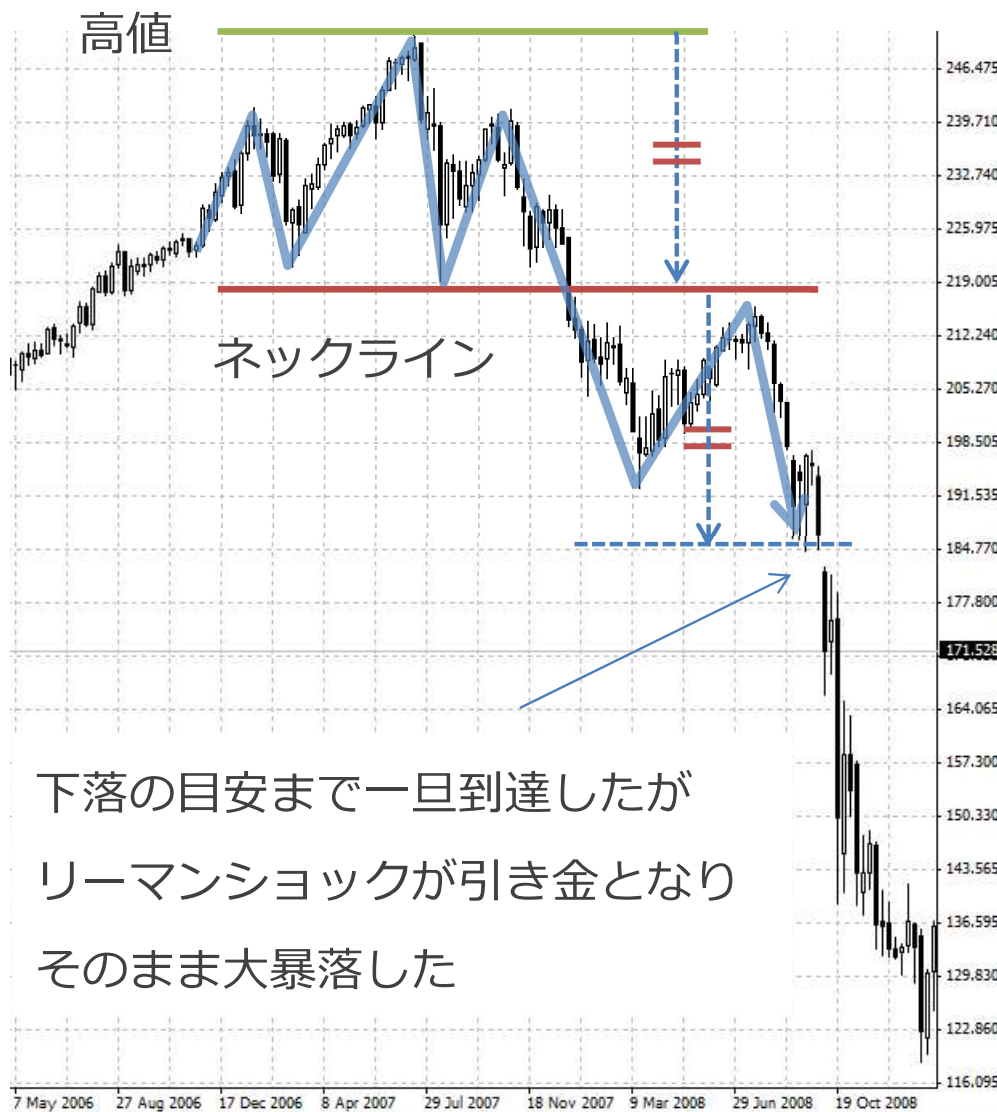
底値型



- ・ 安値とネックラインまでの同じ値幅分が
ネックラインを起点に上昇の目安になる

3-3. チャート例

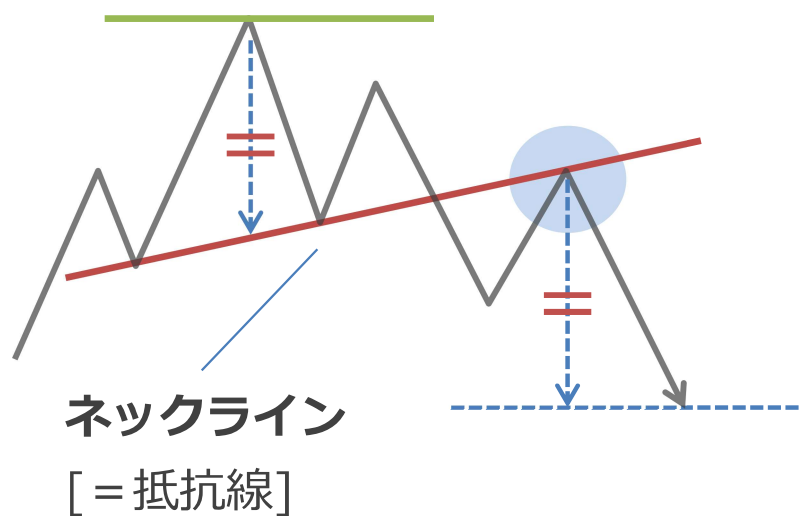
ポンド/円 週足



3-4. 変形型

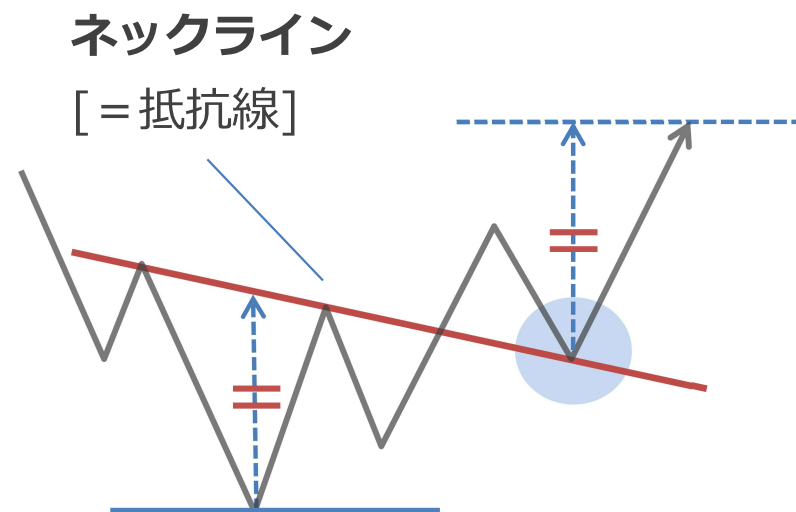
ヘッドアンドショルダーズは、三尊天井とも呼び三山型のパターンになる

天井型



- ・ ネックラインが**右肩上がりになる**
- ・ ネックラインを起点に**売り転換する**

底値型

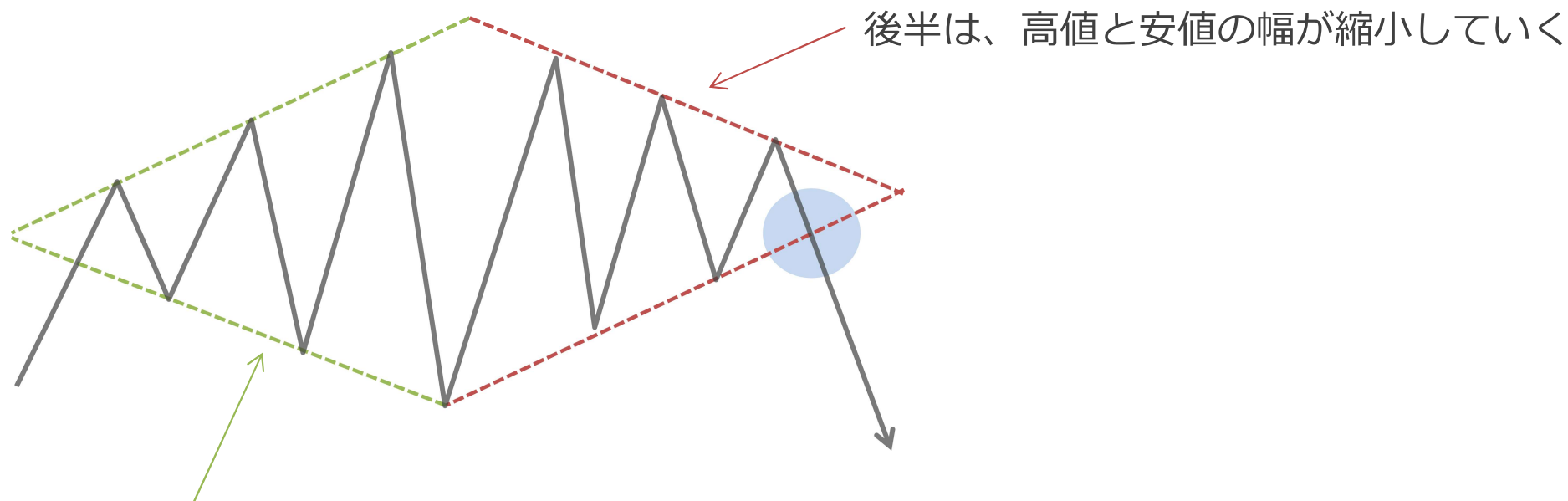


- ・ ネックラインが**右肩下がりになる**
- ・ ネックラインを起点に**買い転換する**

4. ダイヤモンド

4-1. ダイヤモンドの形

ダイヤモンドは、高値と安値をラインで結ぶとひし型になるチャートパターン



前半は、高値と安値の幅が拡大していく

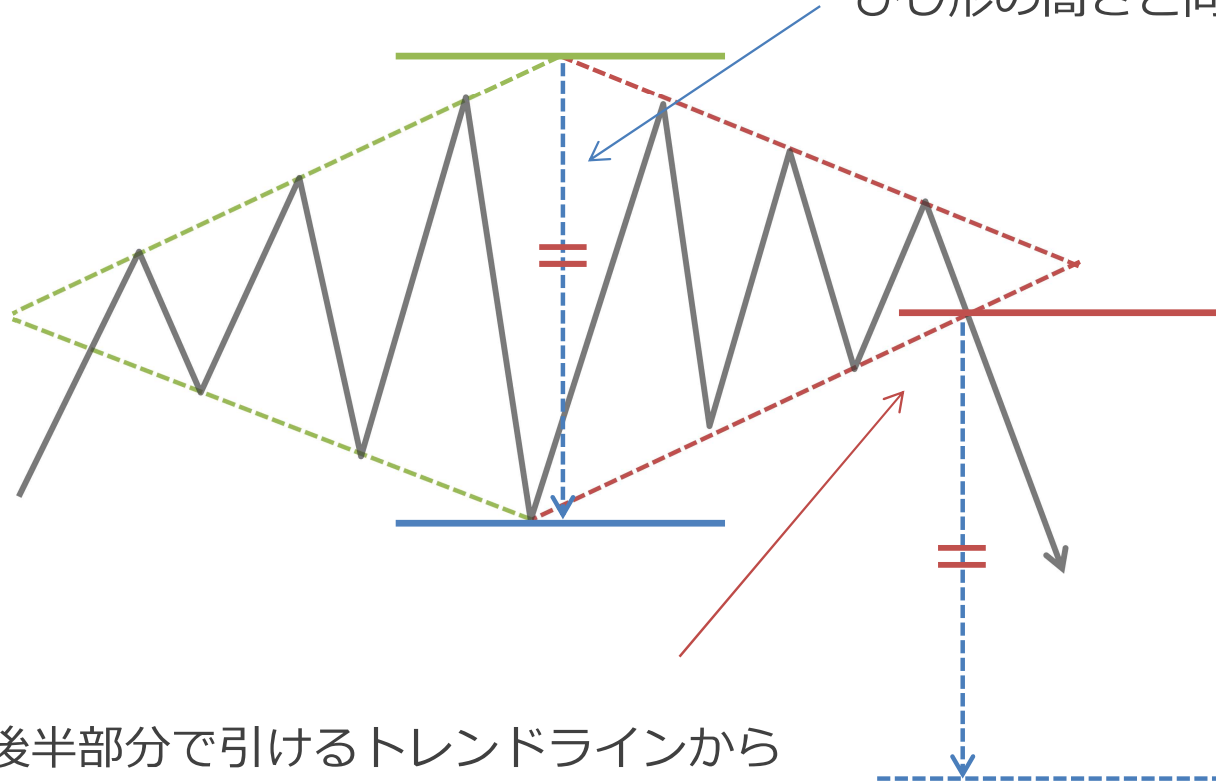
ダイヤモンドは、売買攻防が激しく行われているので傍観が吉

ダイヤモンドは、通常は天井付近で多く出現し珍しいパターンになります。

前半部分の、安値と高値の推移が拡大し始めている時点で、通常の値動きとは異なりますし様子見がベターです。

4 - 2. 目標値の目安

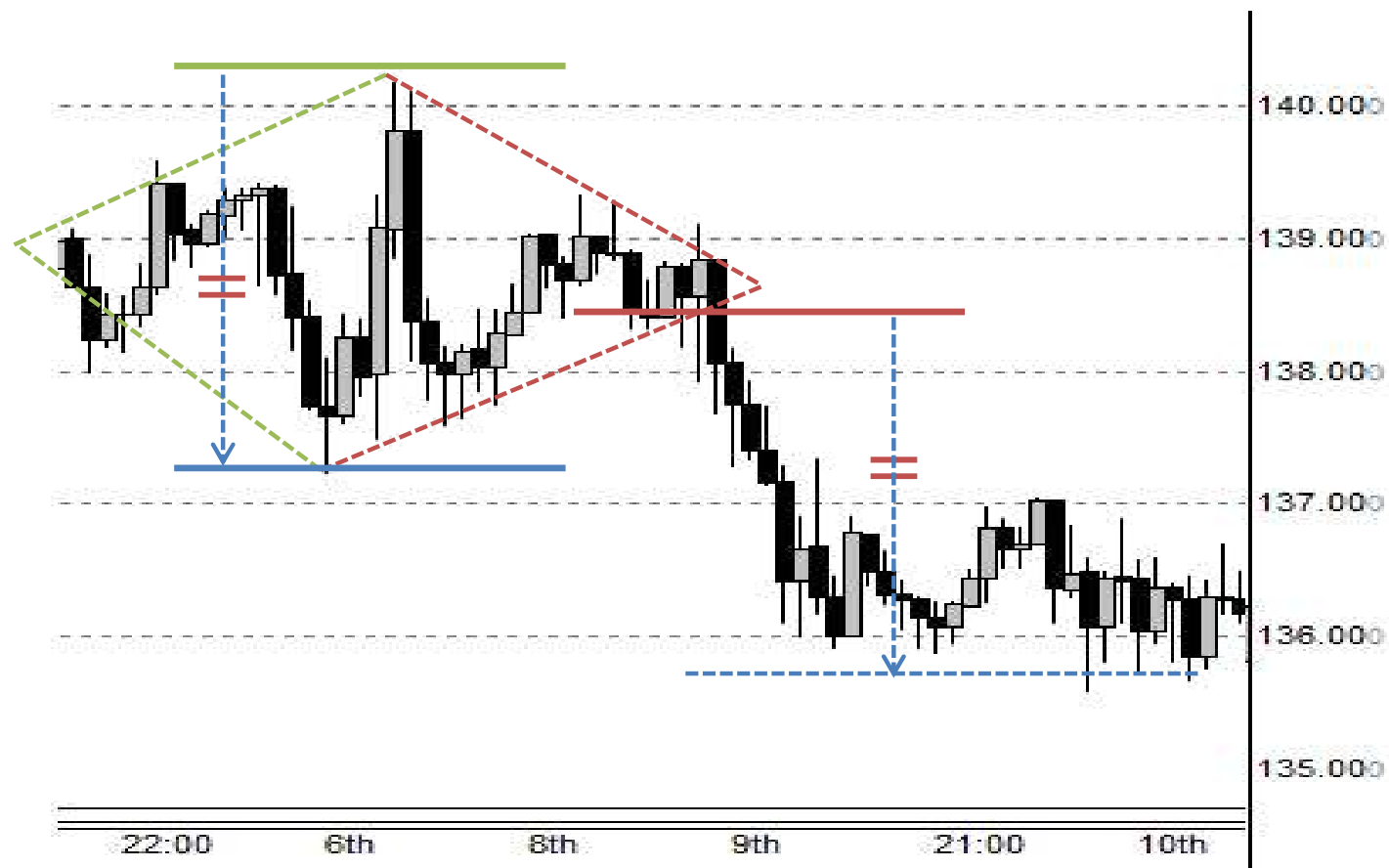
ひし形の高さと同じ値幅分が目安になる



後半部分で引けるトレンドラインから
下放れた所が起点になる

4-3. チャート例

ポンド/円 15分足

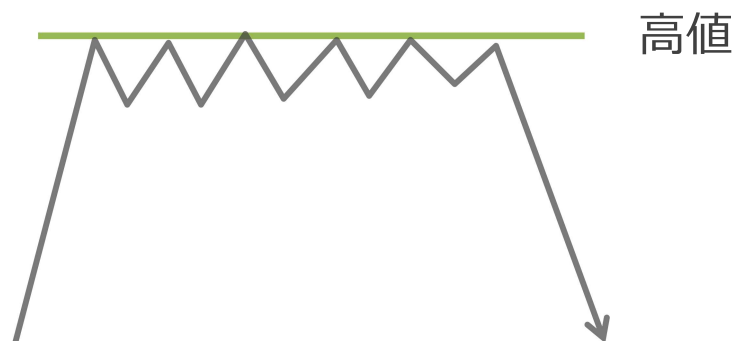


5. ライン型リバーサル

5 - 1. ライン型リバーサルの形

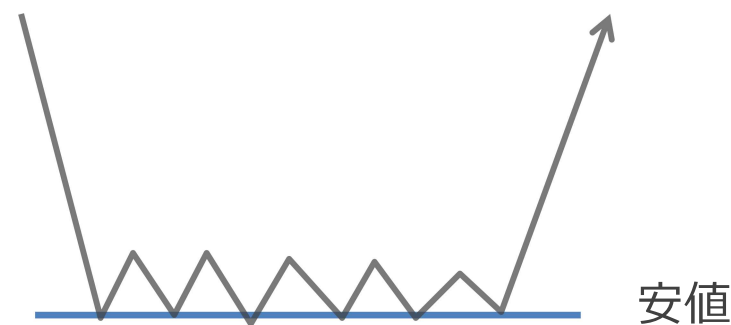
ライン型リバーサルは、高値と安値の範囲で直線的な保ち合いになるパターン

ライントップ



- ・ 安値群を下抜けて、一気に反転する
- ・ 上昇トレンドではあまり出現しない

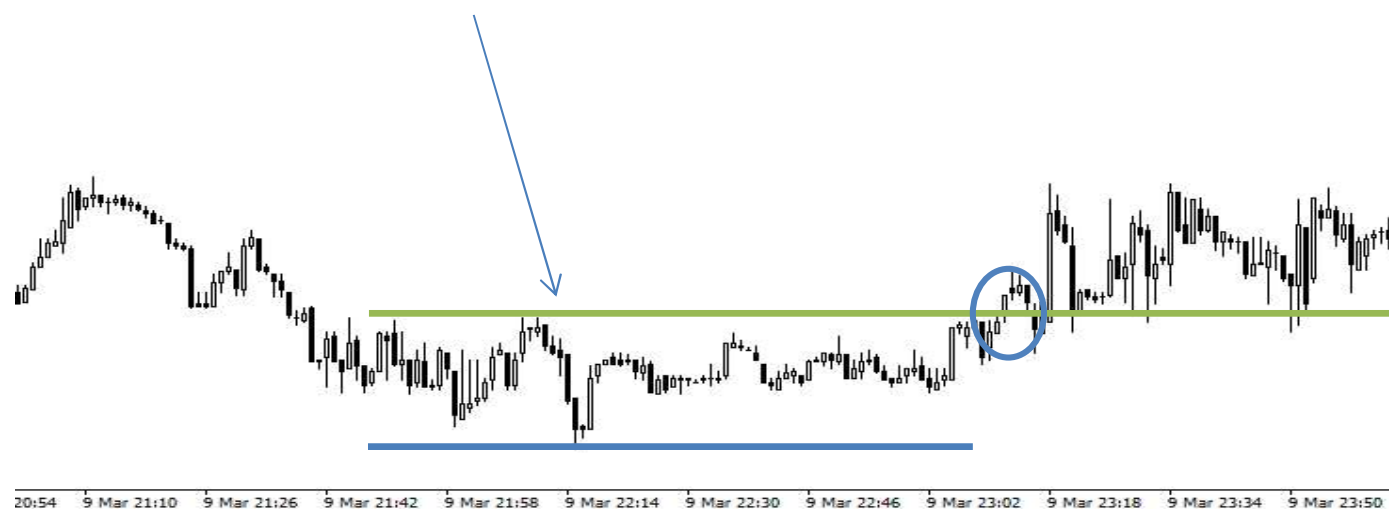
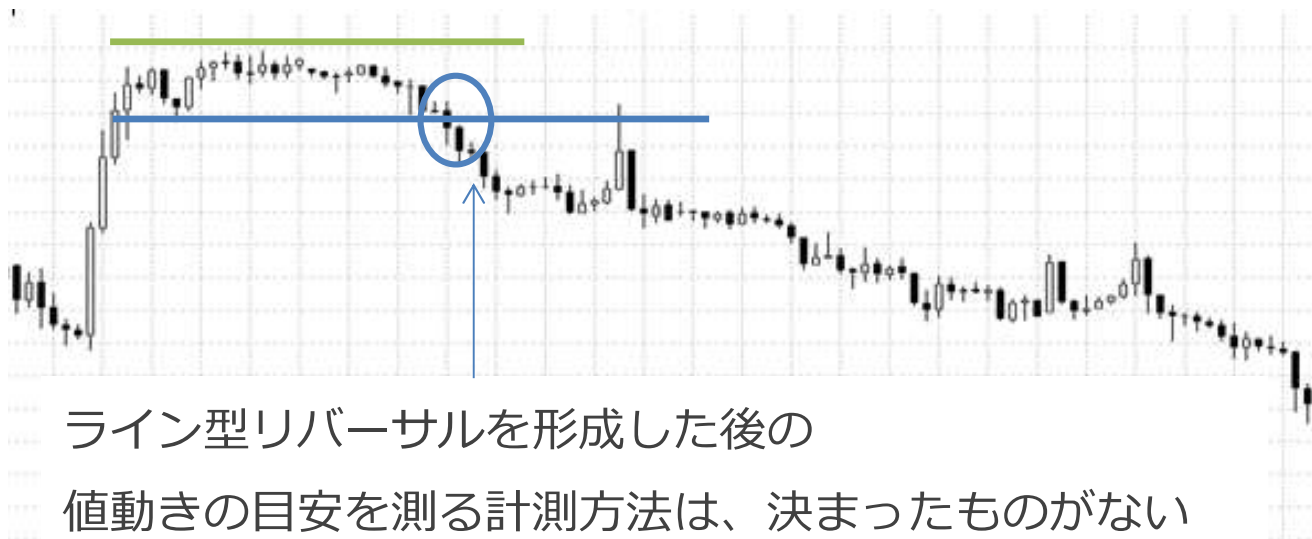
ラインボトム



- ・ 高値群を上抜けて、一気に反転する
- ・ **ライン型は短い時間足でよく出現する**

5-2. チャート例

ドル/円 1分足

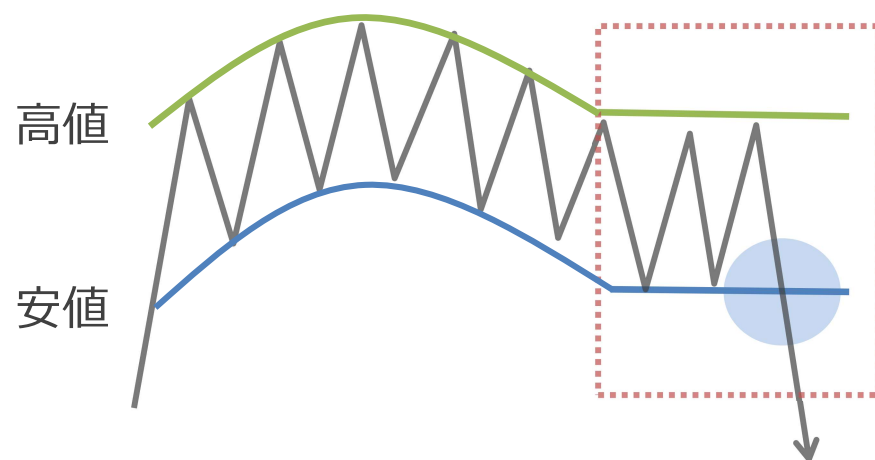


6. ソーサー型リバーサル

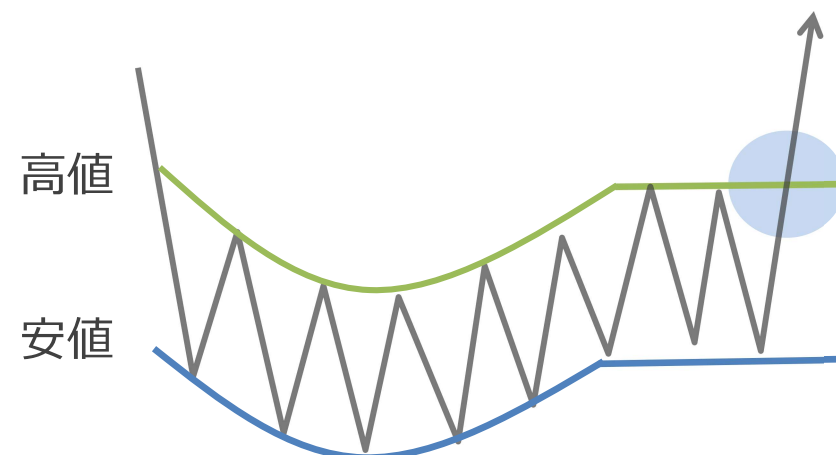
6-1. ソーサー型リバーサルの形

ソーサー型リバーサルは、お皿のような曲線状の保ち合いを形成するパターン

ソーサートップ



ソーサーボトム

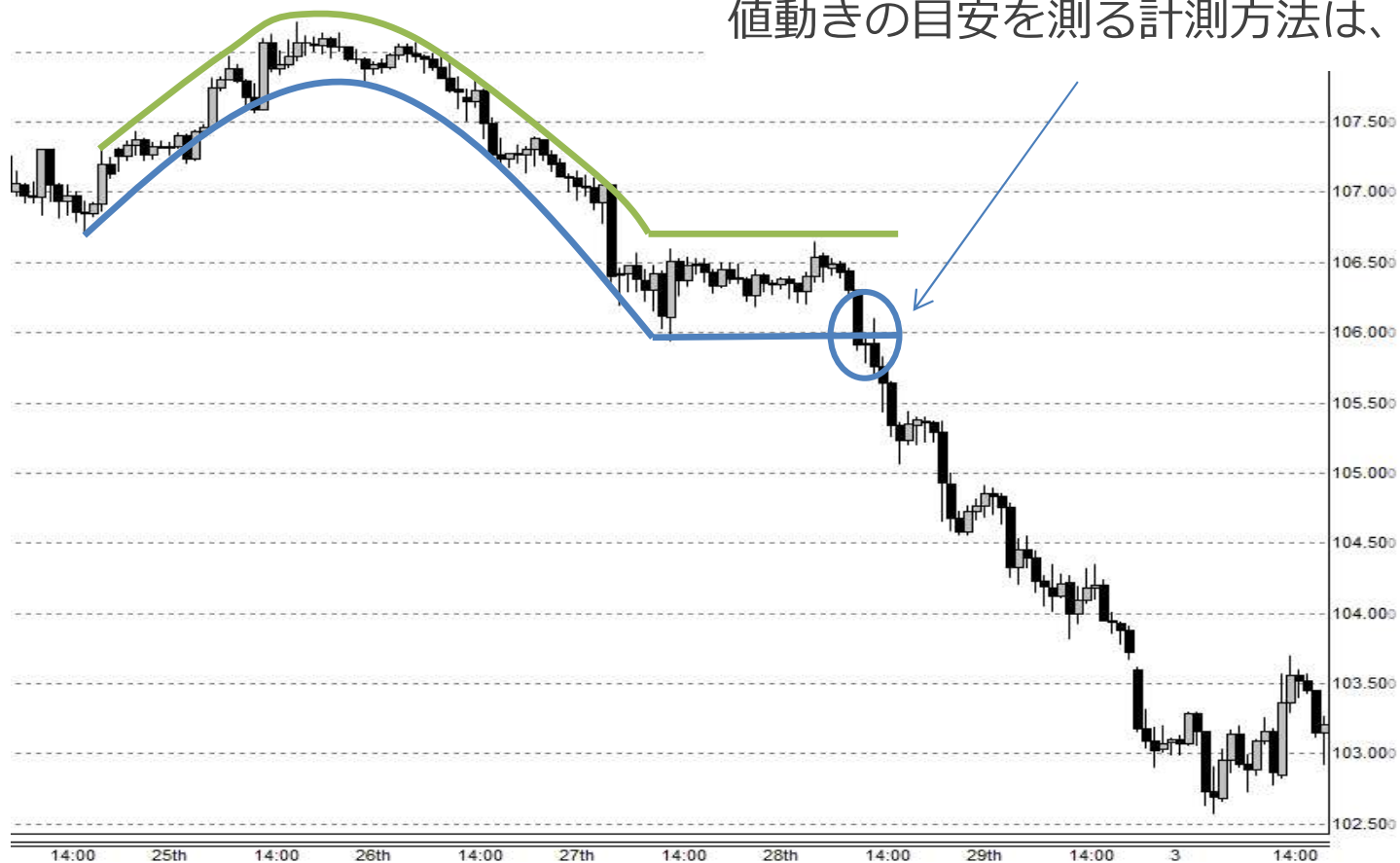


- ・ 高値と安値が曲線状に推移する
- ・ 赤枠内をハンドルと呼び、合わせてフライパンとも呼ぶ

6-2. チャート例

ドル/円 1時間足

ソーサ型リバーサルを形成した後の
値動きの目安を測る計測方法は、決まったものがない

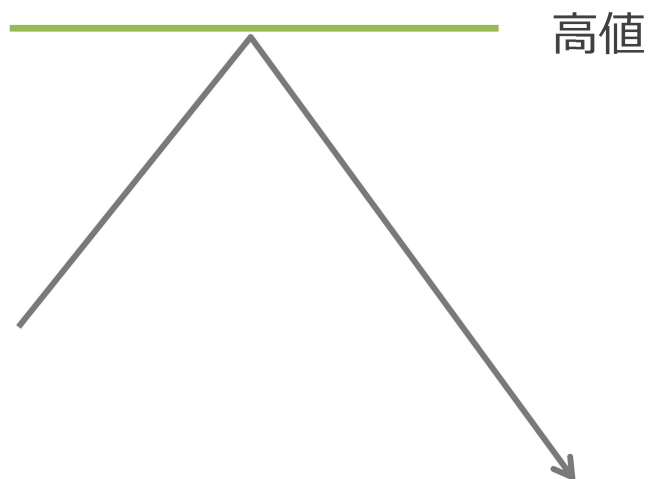


7. V字型リバーサル

7-1. V字型リバーサルの形

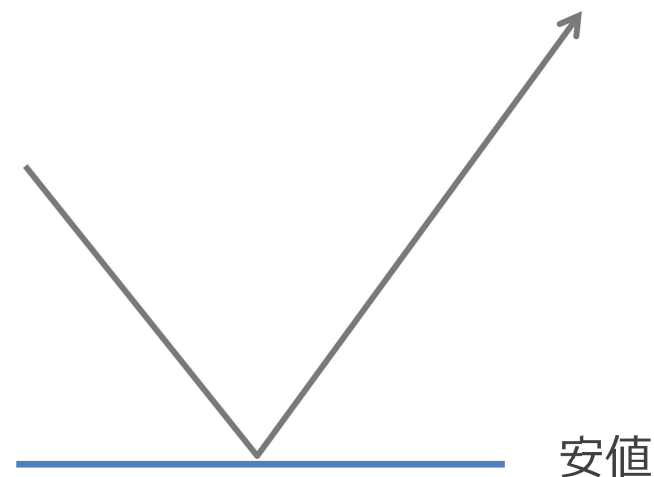
V字型リバーサルは、トレンドの天底で出現し一気に反転するパターン

V字トップ



- ・ 高値を形成後に一気に反転する
- ・ **V字型反転した時点では、売買基準がない**

V字ボトム



- ・ 安値を形成後に一気に反転する
- ・ V字型反転した後は、一旦下落前の価格水準まで戻す事が多々ある

7-2. V字型リバーサル

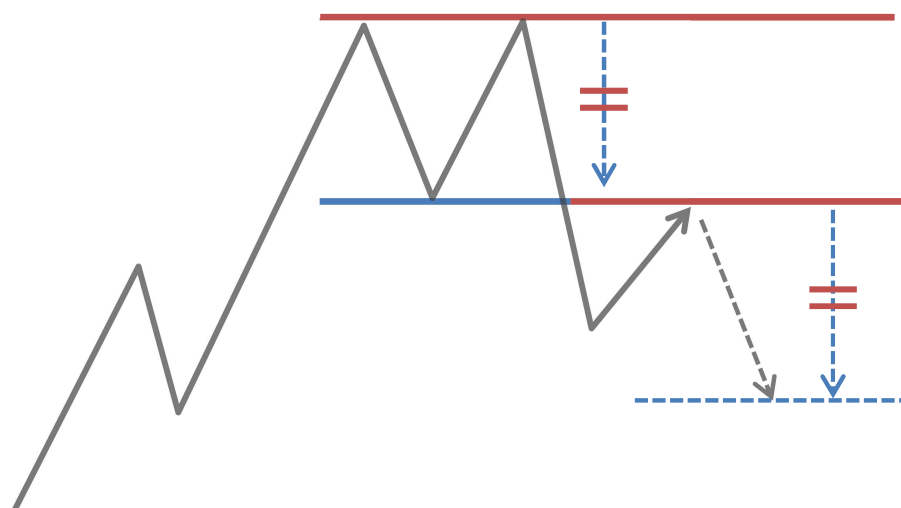
ドル/円 1時間足



V字反転した後の戻りの目安は、
トレンドライン、水平線から判断する必要がある

反転パターン まとめ

- 1 反転パターンとは | **トレンド転換の可能性**を示唆するチャートの動き
- 2 反転パターンの見極め | 支持線が抵抗線に変化するのを確認する
- 3 目標値 | 高値 [安値] とネックラインの値幅分が目標値になる



反転パターンなら、目標値は一先ず
この辺りになりそうだな



継続パターン

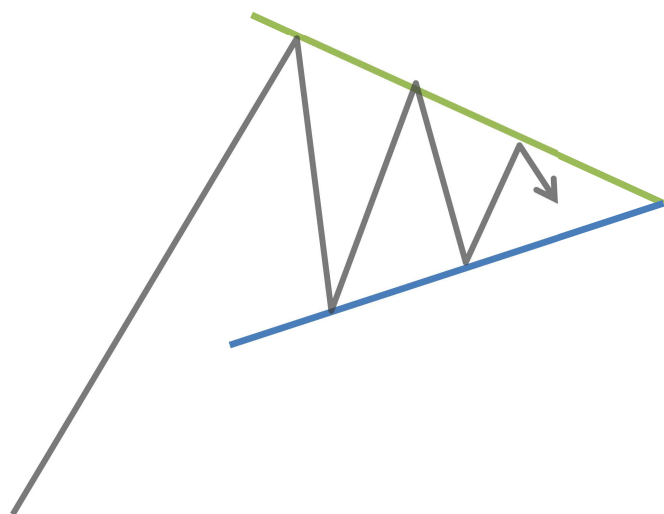
継続パターン とは？

継続パターンとは、**トレンド継続の可能性**を示唆するチャートの動き

- ・ 継続パターンは、保ち合いの形状に注目する
- ・ 長期足でトレンドが発生している状態であると判断しやすい

継続パターンを知っておくと

トレンドフォロー戦略に従った売買がしやすくなります



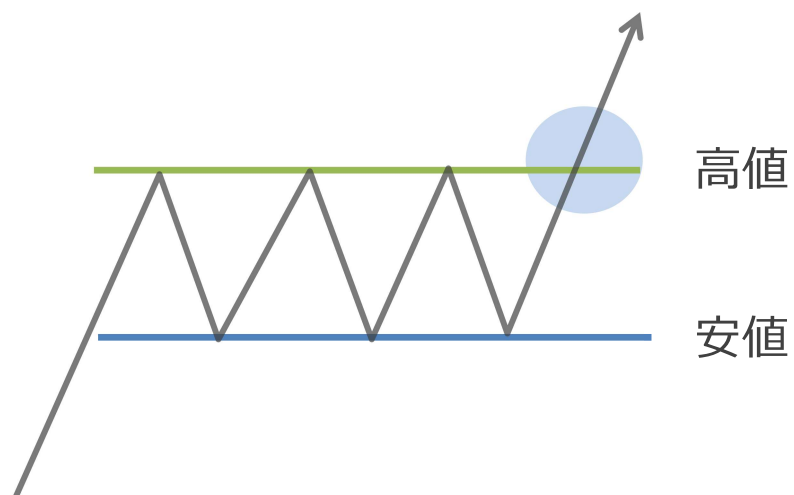
この値動きは、継続パターンになって
トレンド続伸の可能性があるので！

1. ボックス・レクタングル

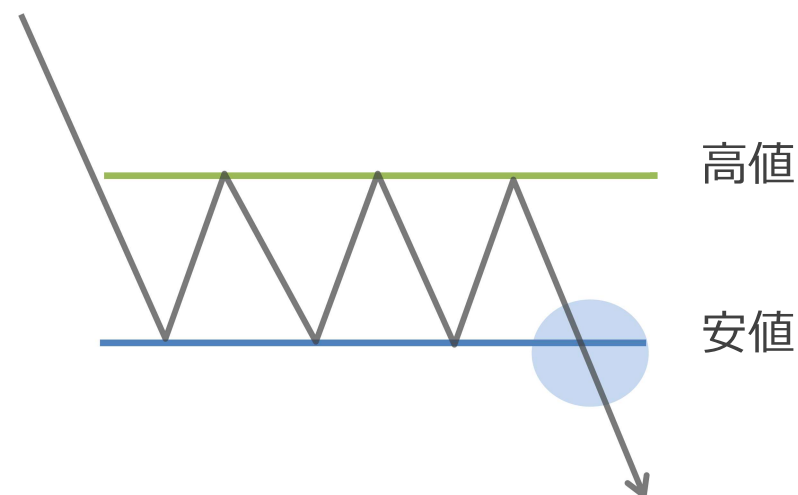
1-1. ボックスレクタングルの形

ボックス・レクタングルは、水平な2本線で形成される保ち合いのパターン

ボックスストップ



ボックスボトム



- ・ 高値 [安値] を抜けると**ボックス・レクタングル**を形成
- ・ トrend方向に抜けない場合は、トリプルトップなどの**反転パターンに繋がる可能性が出てくる**ので、どちらかに抜けるのを待つのがベター

1-2. チャート例

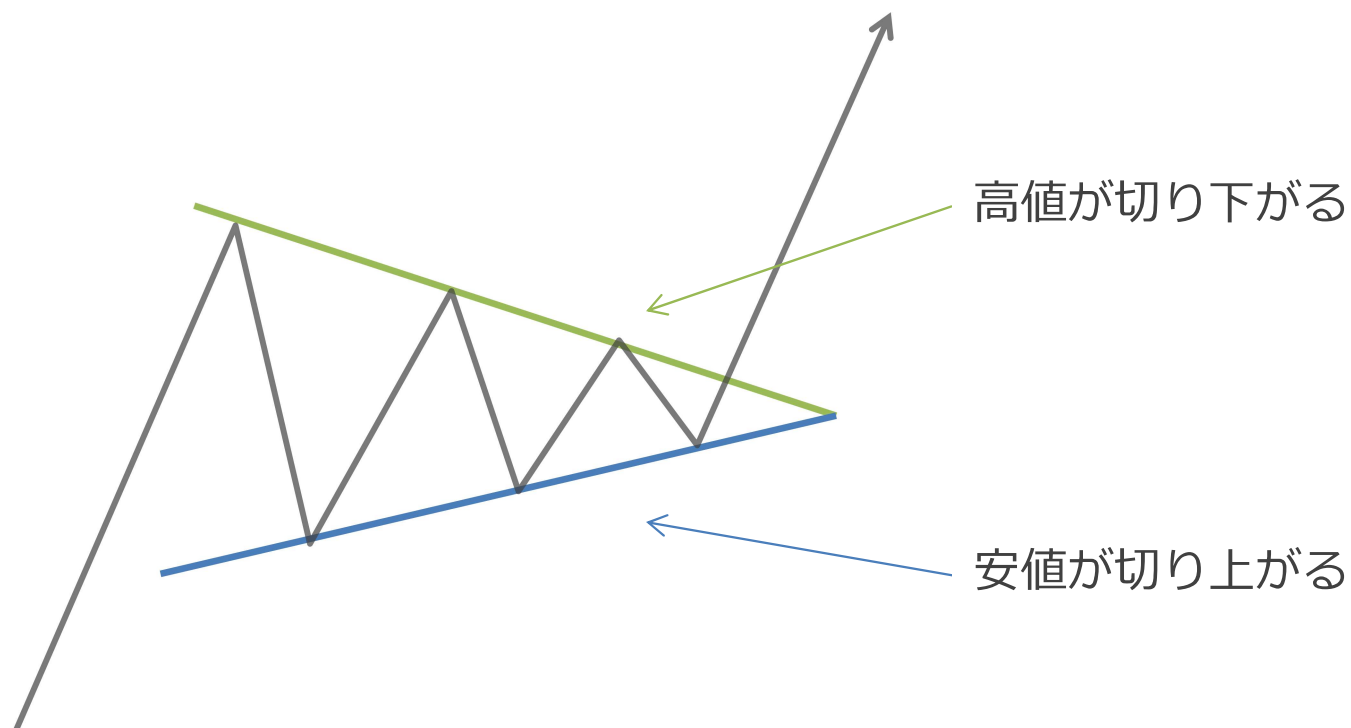
ドル/円 日足



2. 三角保ち合い [トライアングル]

2-1. 三角保ち合いの基本形

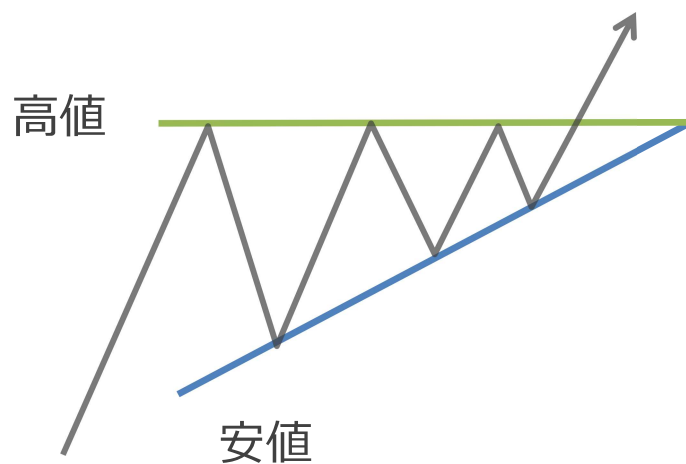
三角保ち合いは、三角形の形で保ち合いを形成するパターン



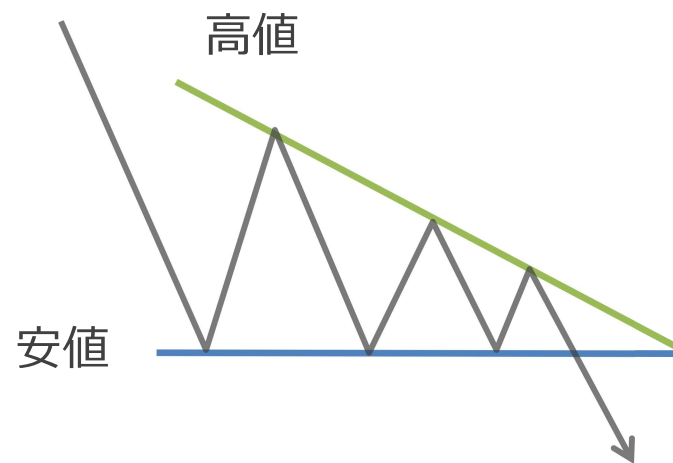
- ・ 高値と安値を結ぶ2本の線が三角形の形になる
- ・ 通常、**高値と安値の幅は徐々に縮小して推移する**

2-2. 直角三角保ち合いの形

アセンディング [上昇]



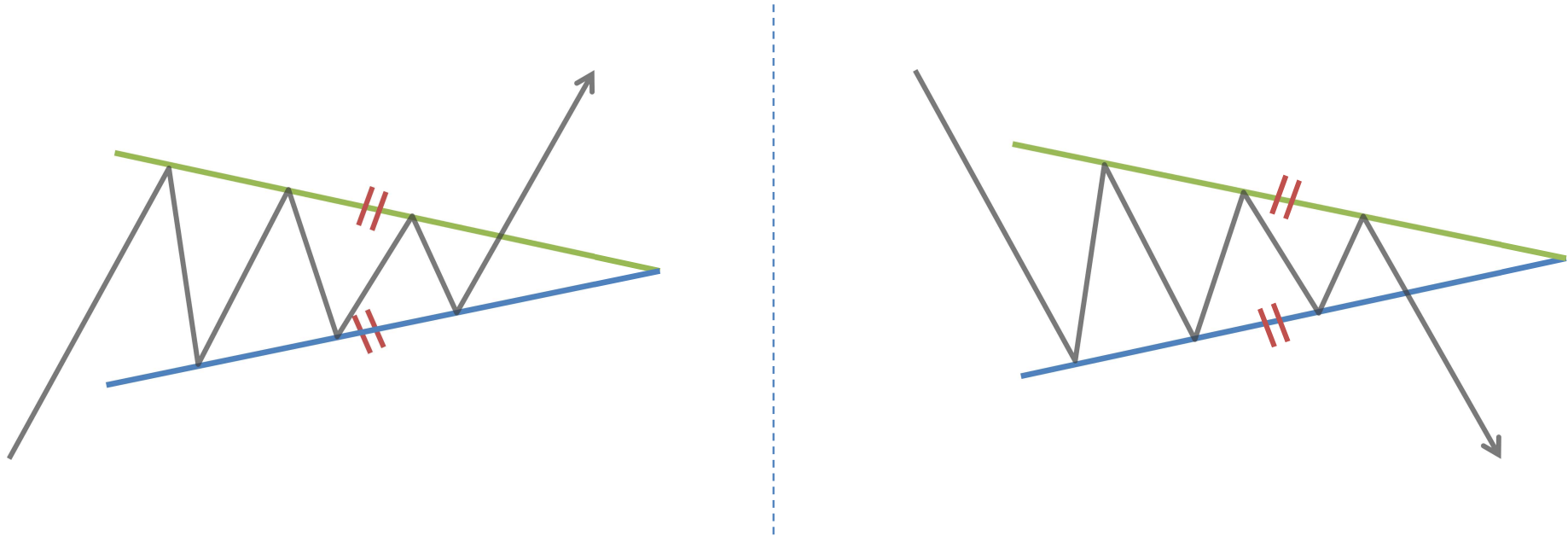
ディセンディング [下降]



- ・ 高値か安値が水平に推移し、直角三角形の保ち合いになる
- ・ 安値の切り上げ、高値の切り下げが、トレンド方向と一致する場合はそのまま継続パターンになりやすい

2-3. 二等辺三角保ち合いの形

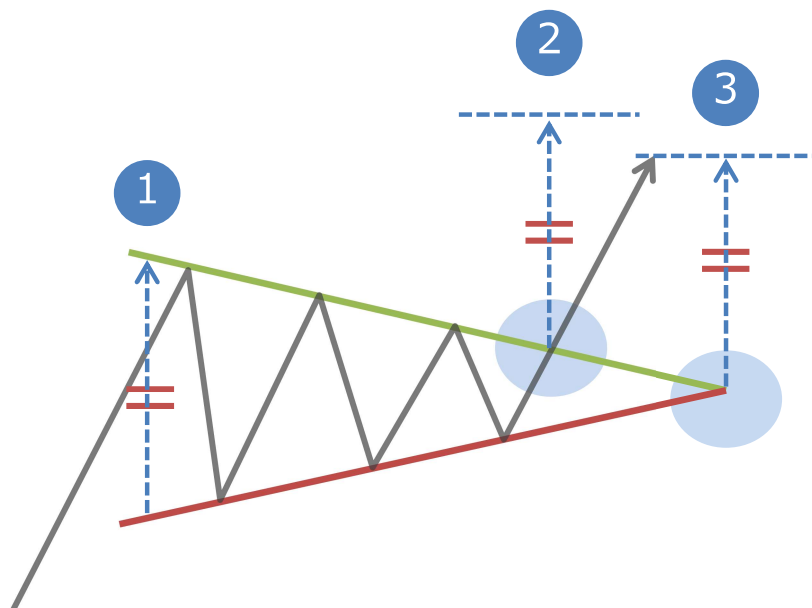
シンメトリカル [対称]



- ・ 高値と安値の推移する角度が同じで、二等辺三角形の保ち合いになる

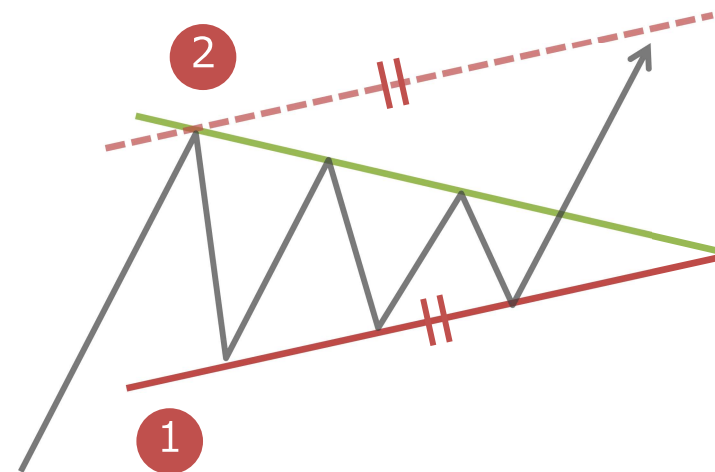
2-4. 目標値の目安

目標値の算出 1



- 1 三角保ち合いの中で
最も幅が広い部分の高さが目安になる
- 2 保ち合いを上放れした部分が起点になる
- 3 三角形の頂点が起点になる

目標値の算出 2

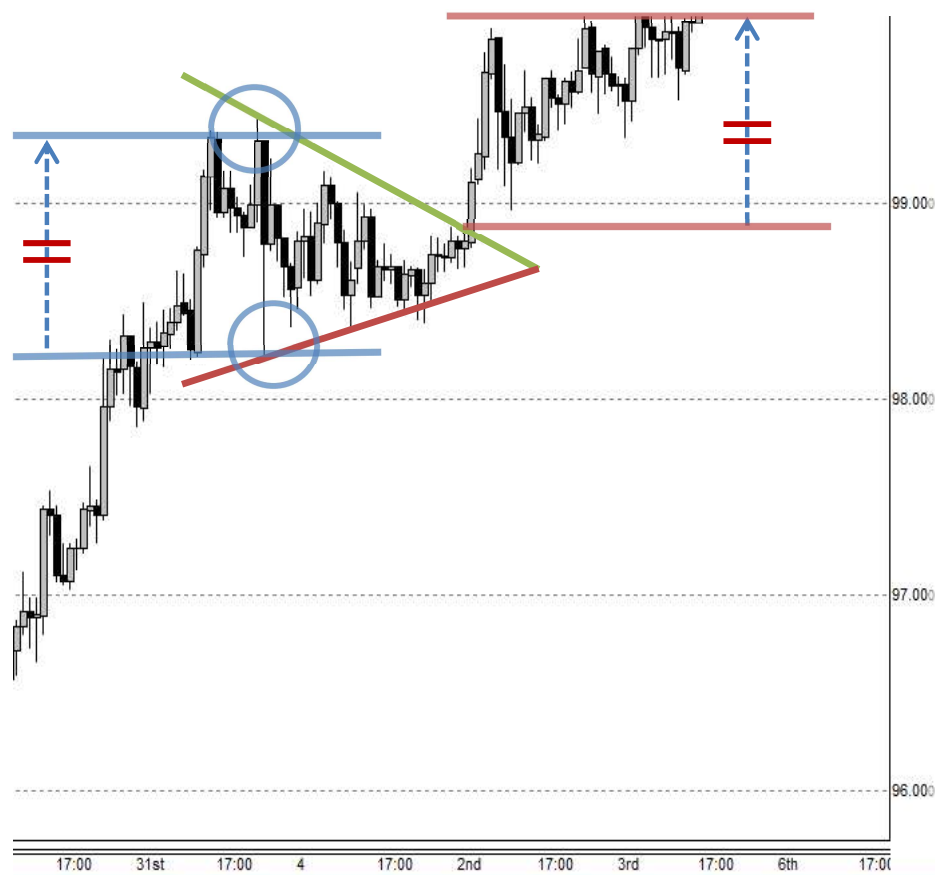


- 1 三角保ち合いの下辺と平行な線を
- 2 三角保ち合いの最高値から引く

2-5. チャート例

ドル/円 1時間足

目標値の算出 1

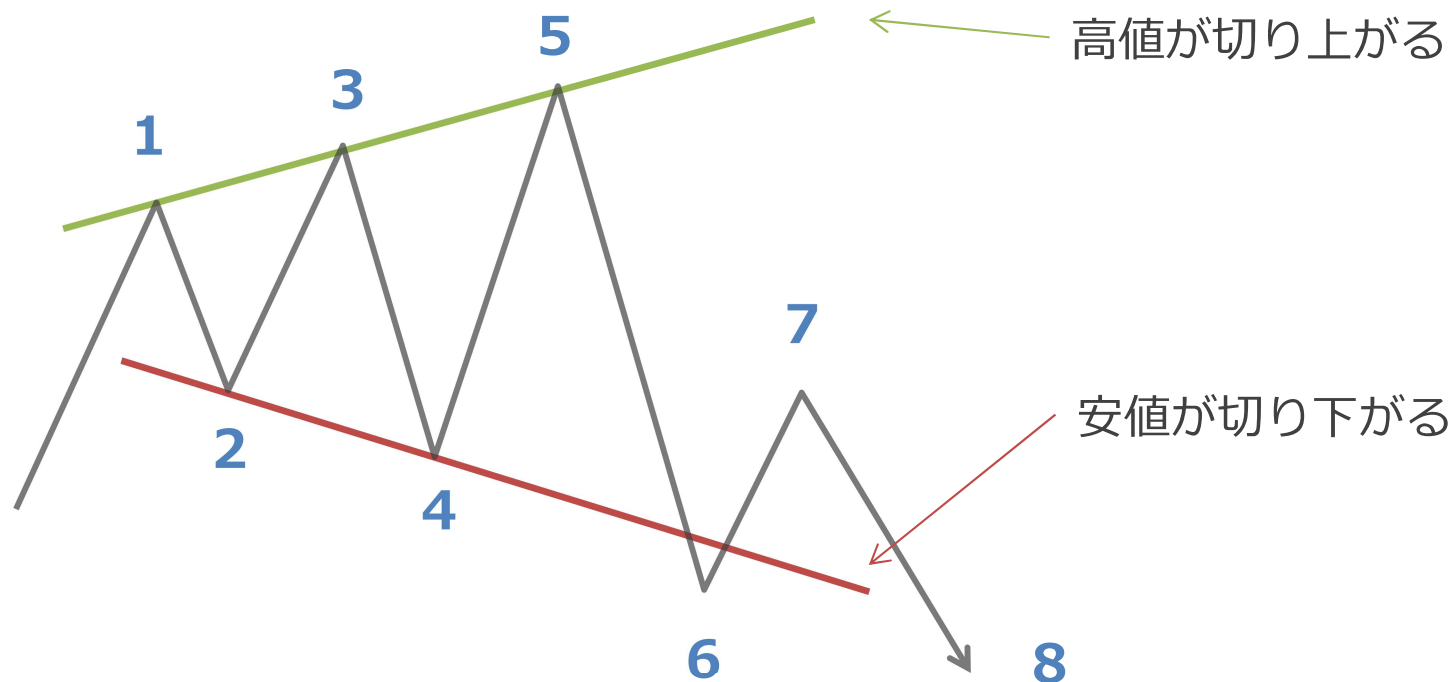


目標値の算出 2



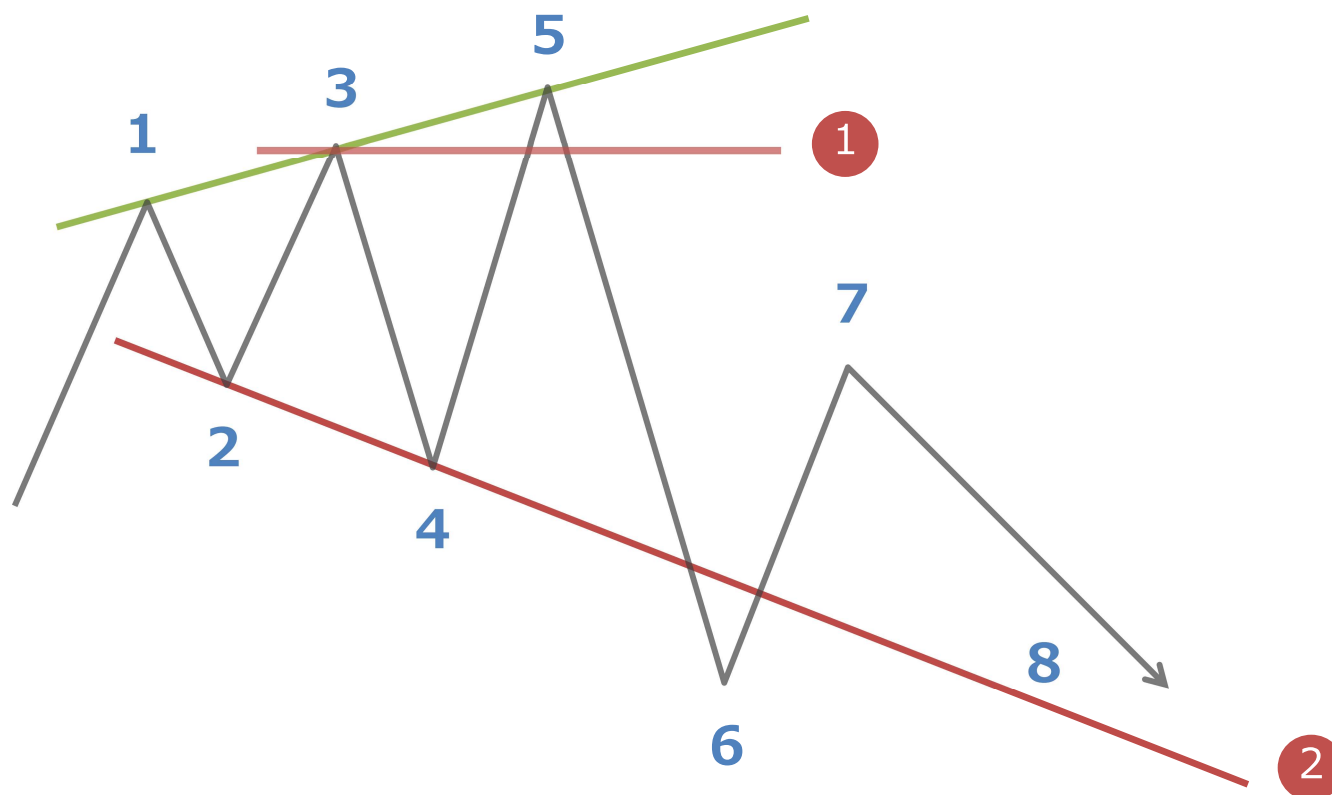
2-6. 三角保ち合いの変形型

ブロードニング [広幅化]



- ・ 高値と安値の幅が徐々に拡大して推移し、逆三角型の保ち合いになる
- ・ 三角保ち合いの中で、**ブロードニングだけ例外で反転パターンになる**

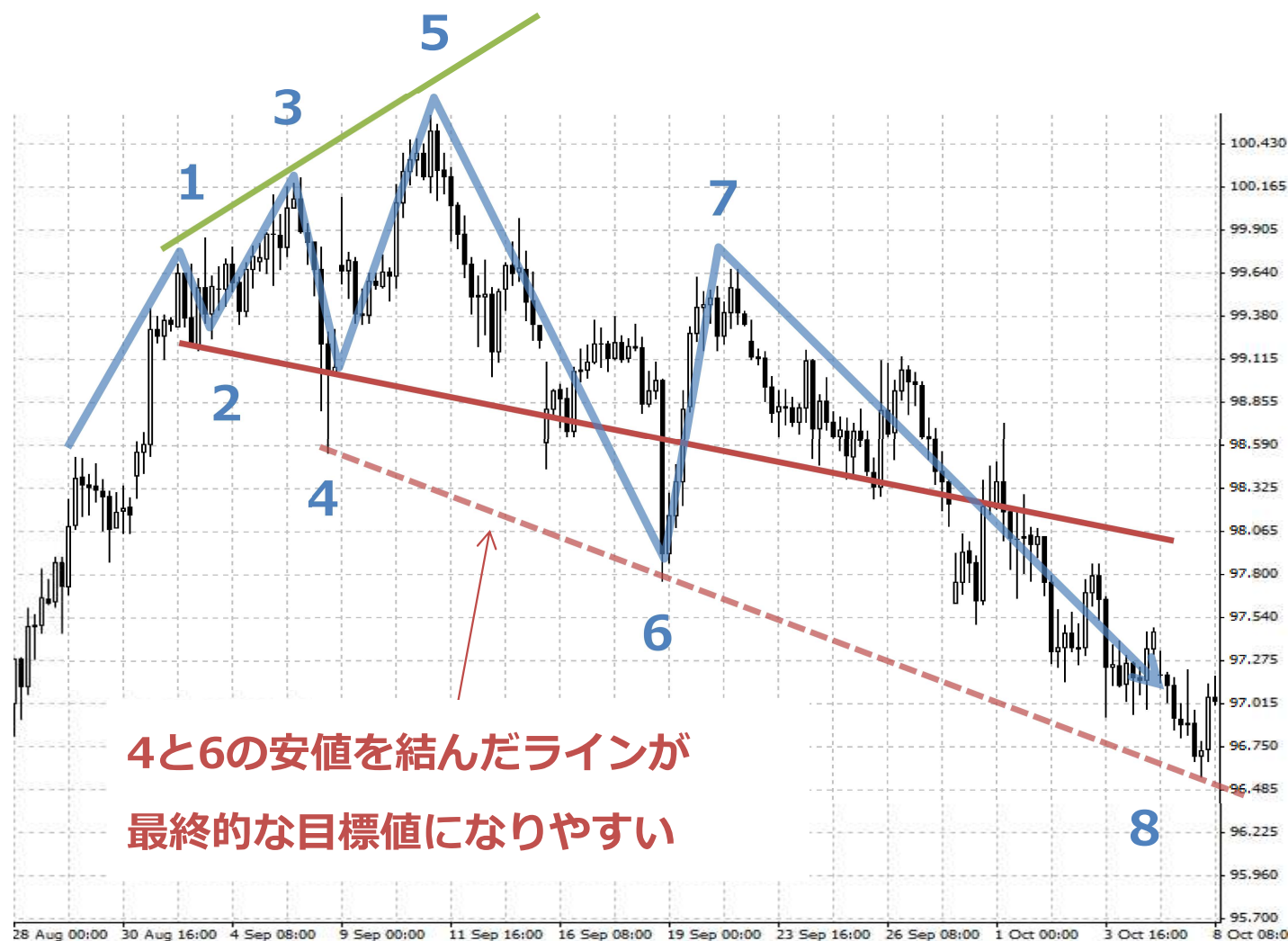
2-7. 目標値の目安



- ① 3番目の高値から引いた抵抗線を、5番目の高値から下回ったらエントリー基準になる
- ② ブロードニングの下辺の延長上が、下落の一旦の目安になる

2-8. チャート例

ドル/円 4時間足



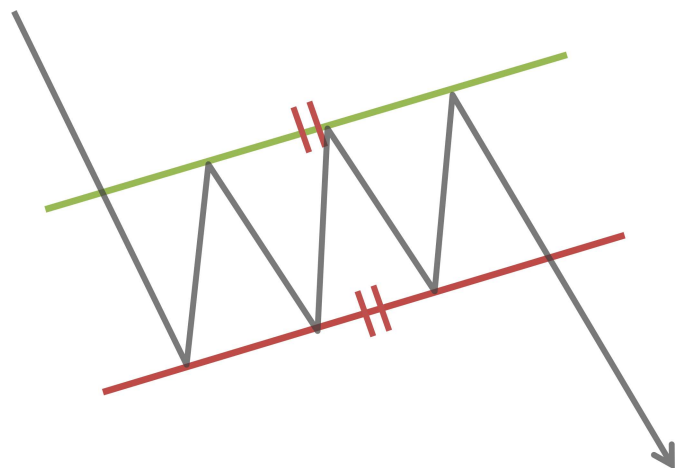
4と6の安値を結んだラインが
最終的な目標値になりやすい

3. フラッグ

3 - 1. フラッグの形

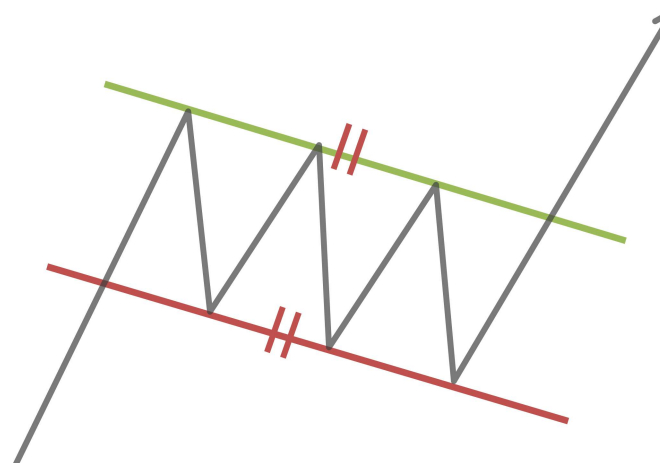
フラッグは、2本の平行な傾斜線で形成される保ち合いのパターン

上昇フラッグ



- ・ 上昇フラッグは、**下降トレンド中にトレンドの反発として発生する**
- ・ 安値と高値がともに切り上がる

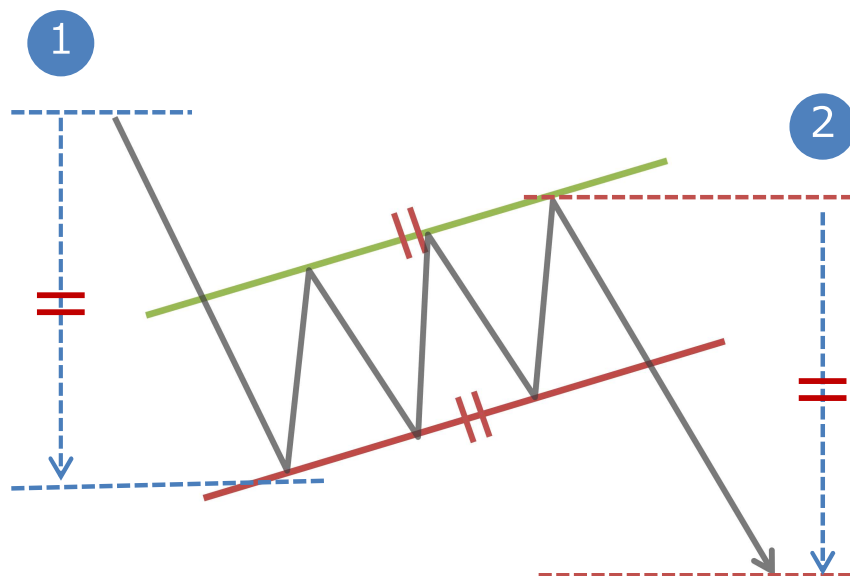
下降フラッグ



- ・ 下降フラッグは、**上昇トレンド中にトレンドの反発として発生する**
- ・ 安値と高値がともに切り下がる

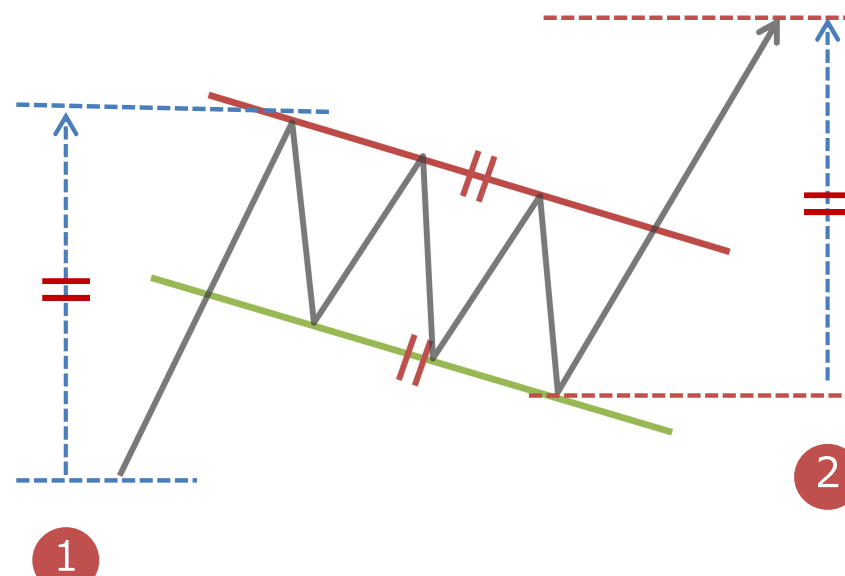
3-2. 目標値の目安

上昇フラッグ



- 1 上昇フラッグが形成される前の下落分が基準になる
- 2 フラッグの最高値部分が起点になる

下降フラッグ



- 1 下降フラッグが形成される前の上昇分が基準になる
- 2 フラッグの最安値部分が起点になる

3-3. チャート例

ドル/円 1時間足

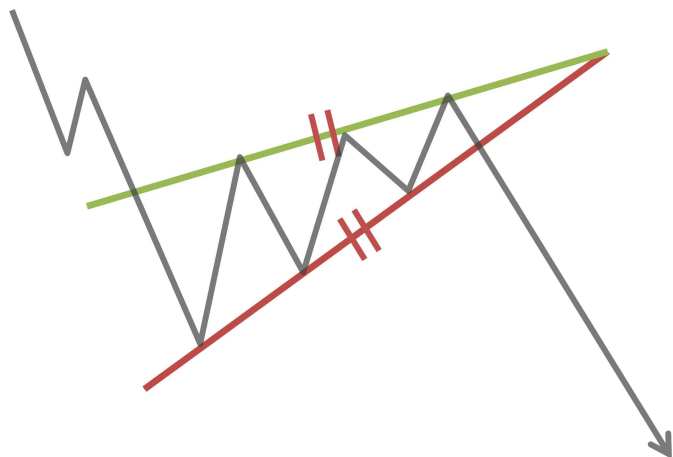


4. ウエッジ

4-1. ウェッジの形

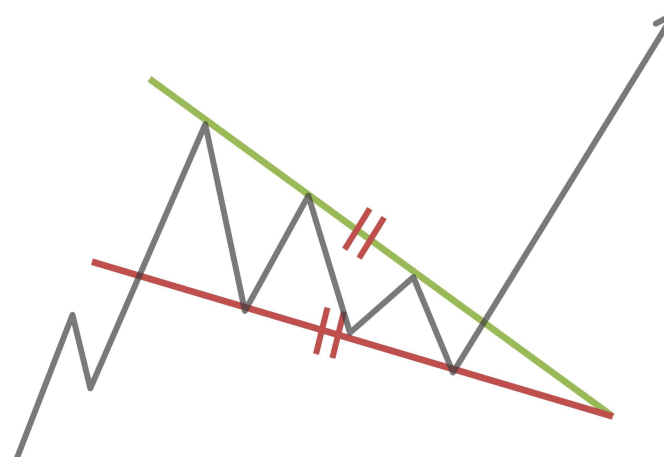
ウェッジは、2本の傾斜線で形成される保ち合いのパターン

上昇ウェッジ



- ・ 上昇ウェッジは、**下降トレンド中にトレンドの反発として発生する**
- ・ フラッグとは違い、平行にはならない

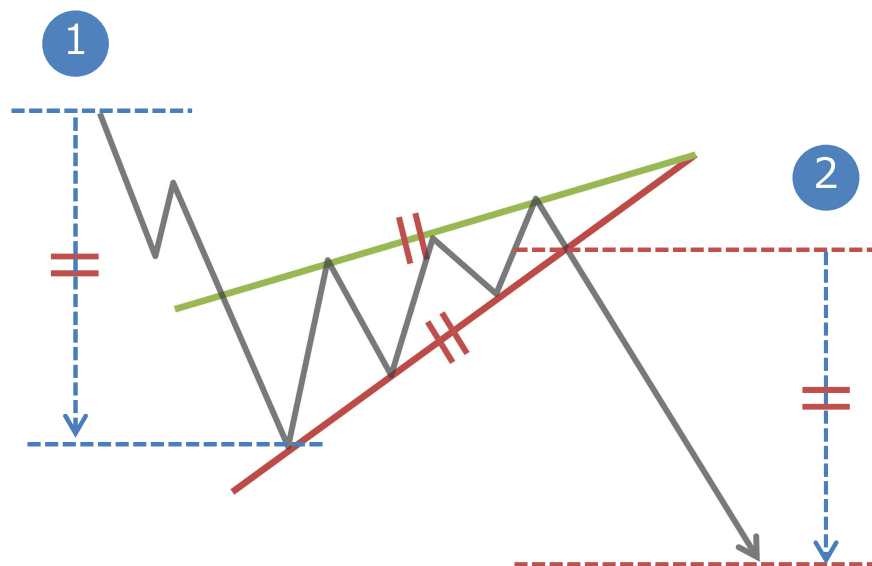
下降ウェッジ



- ・ 下降ウェッジは、**上昇トレンド中にトレンドの反発として発生する**

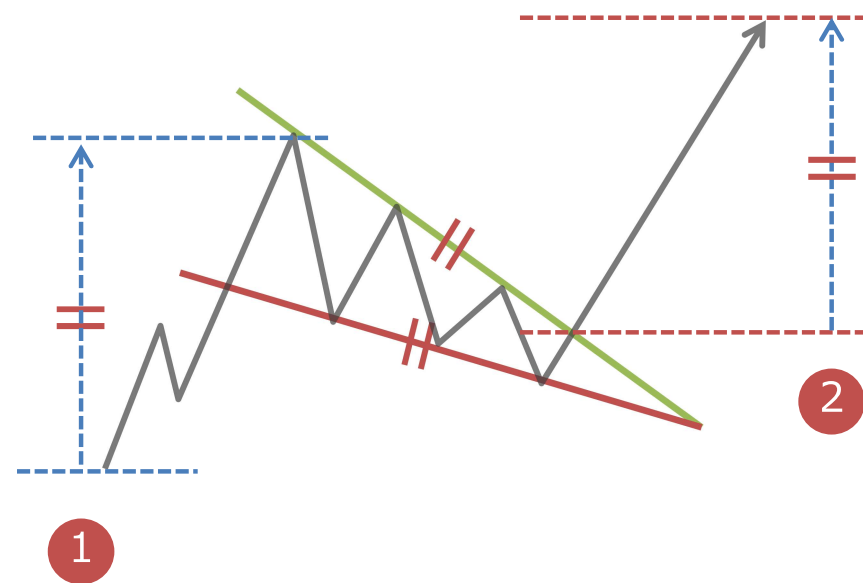
4 - 2. 目標値の目安

上昇ウェッジ



- 1 上昇ウェッジが形成される前の下落分が基準になる
- 2 ウェッジを下放れした部分が起点になる

下降ウェッジ



- 1 下降ウェッジが形成される前の上昇分が基準になる
- 2 ウェッジを上放れした部分が起点になる

4-3. 目標値の目安

ドル/円 1時間足

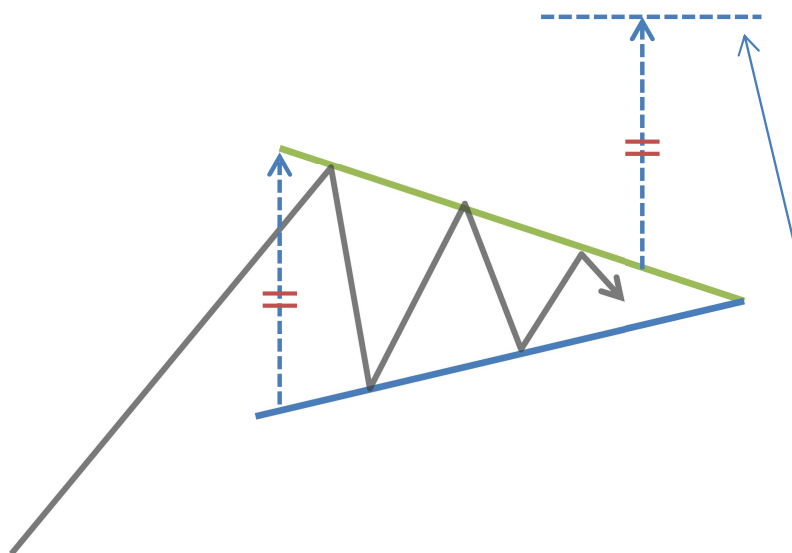


- 1 継続パターンとは | **トレンド継続の可能性**を示唆するチャートの動き
- 2 継続パターンの見極め | 長期足でトレンドが発生している状態であると判断しやすい
- 3 目標値 | ボックス・レクタングル：決まった算出方法はない

三角保ち合い：三角保ち合いの中で最も幅が広い部分の高さが目安になる

フラッグ：フラッグが形成される前の値動き分が基準になる

ウェッジ：ウェッジが形成される前の値動き分が基準になる



継続パターンなら、目標値は一先ずこの辺りになりそうだな